

KIYOSE のひと

社会福祉法人 清瀬わかば会

清瀬の地で 40 年間にわたり社会福祉活動をしている「清瀬わかば会」。理事長の富永健太郎さん、常務理事の有働浩子さん、施設統括責任者の深堀清美さんに話を聞きました。

清瀬わかば会は、「この街で一緒に」を理念に掲げ、重度の障害があっても住み慣れた清瀬で安心して暮らし続けられる地域づくりに取り組んできました。活動の始まりは 1980 年、当時特別支援学級の教員だった有働さんが、夏休みに障害のある子どもたちの居場所としてラジオ体操や遊びの会を始めたことです。その後、保護者の思いと共に障害児学童クラブを開所し、卒業後の働く場となる福祉作業所や、共同生活援助を行うグループホームなど、子どもから大人まで一人ひとりの成長や暮らしを支える事業を展開してきました。

また、地域とのつながりを大切にしていることも、清瀬わかば会の大きな特徴です。地域住民の協力によるバザーや参加型の夏祭り、ミュージカル公演や小学校での交流活動など、障害の有無を超えて地域との交流を育んできました。利用者を「仲間」と呼び、そのご家族にも寄り添いながら、「みんなで支え合えば大丈夫」という思いを大切に、地域への感謝を忘



令和 8 年（2026 年）6 月に開所した「わかばの家ごてんやま」開所式（7 月 12 日）の様子。

れず活動が続けています。この 6 月、仲間が地域の中で人とつながり、自然に社会へ溶け込める環境づくりの一步として、「わかばの家ごてんやま」を開所しました。重度でコミュニケーションをとることが難しい仲間も、生活介護事業所や青年成人期の余暇活動など数年かけて集団に関わることで、何年も短期に挑戦して今回入所に至りました。（写真の仲間）

一人ひとりが地域の中で役割を持ち、共に支え合うことが清瀬わかば会の目指す地域づくりです。これからも、誰もが自分らしく暮らし、地域の一員として活躍できるまちを目指して、地域の皆さんと共に歩み続けていきます。

社会福祉法人 清瀬わかば会
<https://kiyosewakabakai.org/>



清瀬市観光協会の

お
押し!

※富士講（ふじこう）…
江戸時代に庶民の間で爆発的に流行した富士山信仰の
集団・民間信仰。



中里の火の花祭（毎年 9 月 1 日実施）

「中里の火の花祭」は、昭和 60 年（1985 年）3 月に東京都指定無形民俗文化財に指定された伝統行事で、山梨県富士吉田市の火祭りになり始めました。毎年 9 月 1 日、中里の富士塚で丸嘉講武州田無組中里講社（富士講）※の講員により、火伏せや無病息災を祈願して行われます。夜には参道に明かりが灯され、麦わらの大松明に火を点ける「お焚き上げ」が祭りのクライマックスです。灰は火除けや作物の魔除けの御利益があるとされ、持ち帰る人も。また、清瀬市郷土博物館では、富士講の行衣や古文書を常設展示しています。

more! KIYOSE vol.13

企画・発行：清瀬市シティプロモーション課
プロモーション係
発行月：2026 年 9 月
問合せ：042-497-1808（直通）

本誌掲載内容の無断転載はご遠慮ください。
©2026 more! KIYOSE all rights reserved.



SDGs
未来都市
清瀬市
Kiyose City

清瀬市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



みんなの力で
大江戸線を清瀬市へ

あなたの声をお聞かせください

本誌へのご意見や感想、
気になる情報や見てみたい
企画を募集中！これまでの号
も合わせてぜひご覧ください！

ご回答は
LoGo フォームへ



バックナンバーは
こちら

